

中部様式

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

(恵那市・中津川市)

平成20年3月21日 設置

令和 4年2月10日 明知鉄道沿線地域公共交通計画 改訂
(計画期間：平成31年度～令和8年度)

令和 5年1月10日 フィーダー系統確保維持計画 修正

令和 6年1月18日 令和5年度評価結果送付

【沿線地域の特性】

- ・ 恵那市・中津川市は、山間地が多くを占め、岐阜県東濃地域に位置している。
- ・ 恵那市の人口は46,948人、中津川市阿木地域の人口は1,969人（令和5年12月1日現在）

明知鉄道沿線地域公共交通計画

（計画期間：令和元年～8年度）

【基本的な方針】

多くの担い手が連携し、
多くの方々が安心して暮らし、
おでかけできるまち

計画の目標



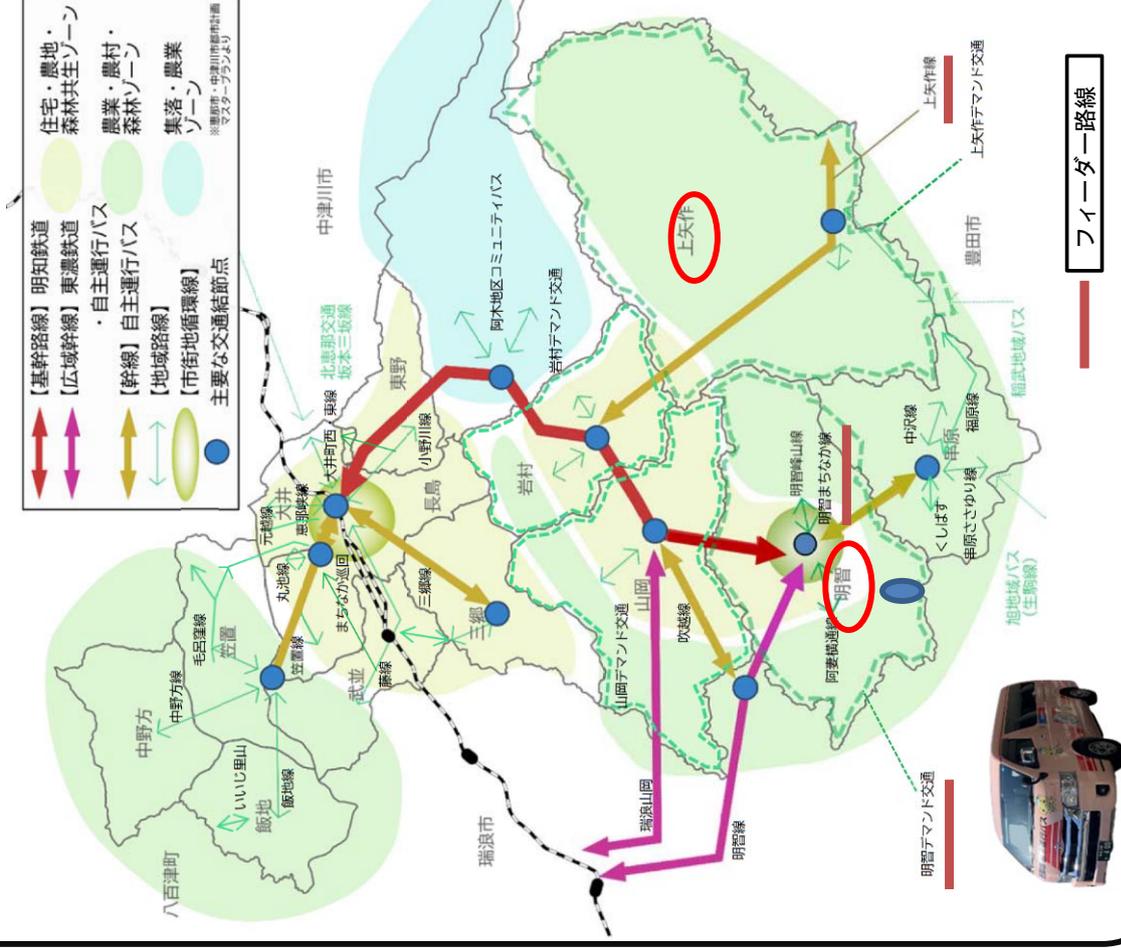
- 目標

公共交通を「支える」「活用する」
地域住民の活動促進
- 目標

持続可能な地域公共交通
ネットワークの形成
- 目標

域外から来た人や高齢者が抵抗なく
自然に移動できる環境の整備

公共交通ネットワーク図



◆ 目標達成のための事業内容 ◆

●●● 具体的取組有り

目標	施策	事業	R5達成状況	R5取組状況
【目標1】公共交通を「活用」する市民の意識づくり 「支える」「活用する」地域住民の活動促進	1.公共交通を「活用」する市民の意識づくり 2.公共交通を「支える」市民の活動促進	1.観光列車やイベントでの市民による活動	○	鉄道の乗客を園児や地元団体がお迎え
		2.地域イベントと連携した公共交通の活用	○	JRウォーキング、FDG、大正村フォトログ、みなのりの祭り、全国山城サミット、WRC、光秀誕生日等と連携
		3.SLの復元を通じた地域づくり	○	SL乗車体験(年5回 436名参加)、ふれあいイベント300名参加 SLファンクラブ加入促進
		4.待合時間を有効活用できる結節点	○	7月より商業施設2Fに「恵那未来キャンパス」開設。20時まで利用可能
【目標2】持続可能な地域公共交通ネットワークの形成	1.地域全体の総合的な公共交通ネットワークの形成 2.快適な公共交通利用環境の整備	1.明知鉄道が有するさまざまな価値の発信	○	明知鉄道連絡協議会、交通会議にて情報発信、高校生ポスター制作(郵舎掲示)
		2.沿線環境の整備	●	地域住民による景観整備、阿木高、恵那農業高生による郵舎装飾
		3.収入源の拡大	○	グリーン会員登録、明知鉄道1日乗車券(市内/バス無料)の販売
		4.モビリティマネジメントの推進	●	12月公共交通シンポジウムの開催、公共交通利用促進ブック制作配布、バス乗り方動画の配信、公共交通乗り方教室の開催
		1.恵那駅周辺での循環線の新設	●	まちなか巡回バス、シェアサイクルの運行拡充
		2.バス路線の見直し	●	上矢作地区、明智地区、旧恵那市区、まちなか線の見直し
		3.明知鉄道の1時間1本化	●	準パターンダイヤ一部設定、交通コンシエルジュ受託、バス事業開始
		1.施設の更新	○	鐵道施設の整備、バス車両の更新
		2.P&R、サイクルトレインの推進	✕	未検討
		3.鉄道・バス共通1日乗車券の発売	△	明知鉄道1日乗車券(市内/バス無料)の販売 今後鉄道も含めて検討
【目標3】域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移住できる環境の整備	1.当地域に適したMaaSの実現 2.バリアフリー化を通じたサービスアップ(現状維持から発展へ) 3.観光列車の推進	1.恵那峡線・大井町東線・大井町西線・明智線の改善・利用促進	○	恵那峡線、大井町東・西線を地域公共交通会議の協議路線とし今後一体的な利用促進を実施する
		2.隣接自治体との関係強化・組織間ネットワークの充実	○	令和5年度より明智線を維持するため、東濃鉄道・恵那市・瑞浪市で協定締結
		1.運賃のキャッシュレス化	●	1日乗車券のキャッシュレス化をR5/3月に開始
【目標3】域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移住できる環境の整備	1.当地域に適したMaaSの実現 2.バリアフリー化を通じたサービスアップ(現状維持から発展へ) 3.観光列車の推進	2.人とアプリによる「交通コンシエルジュ」	●	恵那市交通コンシエルジュ(人・WEB)をR4/10月から運用開始し拡充
		3.日帰り旅コースの設置・運用	●	市交通コンシエルジュ内で公共交通を利用した「小旅行」コースを設定
		4.定額制乗り放題運賃・年間パスポート	●	市内バス1日乗車券をR5/3月発売。ワンコインバスポートの発売
		5.モードを跨いだ運賃設定	●	市自主運行バスと東濃鉄道営業路線の運賃の統一をR5/3月に開始
		6.移動データの取得	●	AI画像認識技術で映像を数値に変換した移動データの可視化を導入
		1.駅舎などのバリアフリー化	✕	未検討
		2.ポランティア車掌の創設	✕	未検討
		3.外国語案内・バス系統番号の表示	○	コンシエルジュウェブサイト内一部外国語対応。バス系統番号を全バス車両に設置
		1.観光列車と広報・周知の充実	○	乗り方教室や料理列車、イベント等でチラシの配布
		2.観光列車やイベントでの市民による活動(再掲)	○	事業1-1-1

◆ 具体的な取組内容1 沿線地域住民の意識醸成・共有 ◆

目標1：公共交通を「支える」「活用する」「活用する」地域住民の活動促進

【沿線環境の整備・SLの復元を通じた地域づくり】

- ★毎年高校生による**駅装飾活動**等により、乗客の駅での滞在時間が長くなった
 - ・阿木高校
 - ・クリスマスに合わせ**駅装飾**及び待合室の**座布団設置**
 - ・恵那南高校
 - ・明知鉄道応援プロジェクトで**ポスター制作**
 - ・恵那農業高校
 - ・季節ごとに恵那駅に**合わせた植栽**
- ★**SL復元検討委員会設置**(R5/11)R6末までに調査・検討し復元の可否の判断をする。

【モビリティマネジメントの推進】

- ★**公共交通シンポジウム**（年1回開催）を開催し、沿線住民に向けて公共交通の実態を知ってもらう、考えてもらうきっかけ作りを行う。R5年度は明智会場で実施し、150名の参加を見込んでいたが200名を超える参加。路線再編をした地域でもあり、感心の高さが窺えた
- ★恵那市の**公共交通利用促進冊子**（沿線公共交通機関、時刻、運賃、乗り方等）を作成し11月に全戸配布。また、**バスの乗り方動画をYouTube等で配信し利用促進を図った**
- ★冊子及び動画などを活用して状況に応じた**バスの乗り方教室を実施**
 - 小学校・・・2校
 - 路線再編地区等・・・15回
 - イベント・・・5回



9月25日(月) 飯田河方面 ⇨ 道の駅
 申し込み先・上灰作農事事務所 47-2111

◆ 具体的な取組内容2 交通体系の整備・官民共創 ◆

目標2：持続可能な地域公共交通ネットワークの形成

【恵那駅周での循環線新設】

- ★昨年6月まちなか巡回バスの運行開始。日常使いに定着し、対前年比30%増加
- ★昨年8月、公共交通機関を補完する目的でシェアサイクルを設置
日常使いに定着し、対前年比15%増加 更なる効果として観光利用に使われていることがわかったため、10月から新たに観光地にステーションを増設
ステーション数・当初5箇所設置⇒現在13箇所増設。



【バス路線の再編】

- ★旧恵那地域
- ★阿木地域
- ★明智地域
- ★上矢作地域
- ★民間のバス路線を交通会議の協議路線化

市内は新規4路線、路線延長5路線
小学生が乗車できる時間帯に変更
まちなか巡回線とデマンド路線の導入
デマンド路線の導入

地域と協議を重ね再編

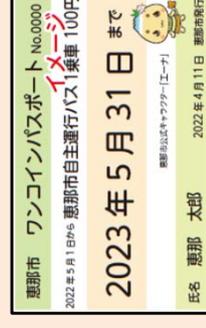
※明智・上矢作地域はライダー路線



【恵那市バス運賃の見直し】

- ★運賃の統一
- ★定期券の再設定
- ★運賃の割引

市内1乗車200円（デマンド交通300円） ← 距離制運賃を市内全路線統一
 バス定期1ヶ月5,000円（← 最大18,000円だった）
 75歳以上と免許返納者に対してワンコインパスポートの発行
 年間2,000円のパスポートを購入し提示すると1乗車100円
 （免許返納者は1回に限り無料でパスポート贈呈）
 市内バス1日フリー乗車券販売 500円
 明知鉄道1日フリー一切符で当日に限り、市内バス全路線も1日無料で乗車



【明知鉄道の機能強化】

- ★運行時刻の準パターンダイヤ一部設定
- ★恵那市の交通総合案内所「恵那市交通コンシェルジュ事業」を受託
- ★一般乗合旅客自動車運送事業を開始し恵那市自主運行バスの
明智地区路線の運行を令和5年4月1日より開始

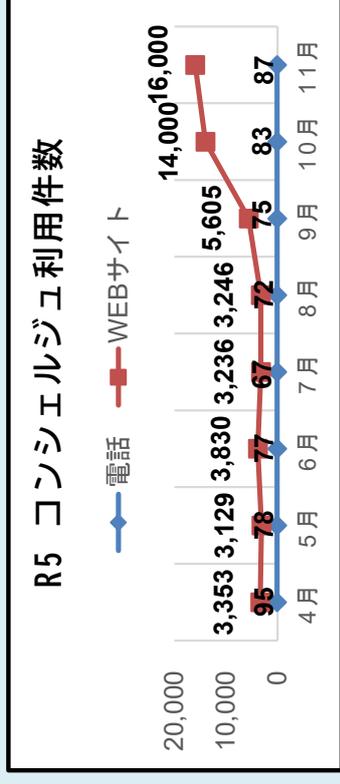


◆ 具体的な取組内容3 移動環境の整備・周知 ◆

目標3：域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備

【人とWEBによる「交通コンシエルジュ」の設置】

公共交通の利用促進・利便性向上のため、R4年10月から「電話相談窓口」と「公共交通ポータルサイト」の2本立てで移動に対するお困りごとを解決する「交通コンシエルジュ」を開設



- 恵那市交通コンシエルジュ ポータルサイト
<https://www.ena-transportal.net>
- 恵那市交通コンシエルジュ 公式LINEアカウント
<https://lin.ee/IFmVNEem>

【移動環境の整備】

- ★ 明知鉄道 恵那駅、岩村駅、明智駅にデジタルサイネージの設置
- ★ バス1日フリー乗車券のオンライン決済及びデマンドバス予約のオンライン化（コンシエルジュサイト）
- ★ バス車両に路線番号を表示
- ★ 恵那市内全バス停にバス停ごとの二次元バーコードシールを設置
- ★ バス車両内にカメラを設置し、AI画像認識技術による映像を数値に変換した移動データを可視化して路線再編等に活用
- ※ R6年1月から、明知鉄道の全車両に同様のカメラを設置
- ★ 複数事業者が設置している同名バス停を1本化し、時刻表を見やすく整理



3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

地域公共交通計画における目標

・ 明知鉄道沿線地域公共交通計画に定めてある評価指標により確認を行う。

アウトプット指標		H29実績	R4実績	R5実績	R8目標値	達成度
目標1 公共交通を「支える」「活用する」地域住民の活動促進	公共交通を「活用」する団体数	6団体	7団体 (R3実績)	7団体 (R4実績)	11団体	→ 63%
	ボランティア運営手養成講座の参加者数	0人/年	16人/年 (R3実績)	37人/年 (R4実績)	30人/年	→ 123%
	公共交通などで、沿線4高校に通える中学校数	7校	7校	8校	9校	→ 89%
目標2 持続可能な地域公共交通ネットワークの形成	自主運行バス利用者 満足度	94.6%	→ 95.1%	97.0%	96.0%	→ 101%
	観光による公共交通利用者数 (観光列車、日帰り旅コース) (4月～翌年3月締)	16,222人	3,999人 (R3実績)	12,840人 (R4実績)	16,000人	→ 80%
目標3 域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備	グリーン会員証の発売枚数 (4月～翌年3月締)	963枚	676枚 (R3実績)	733枚 (R4実績)	900枚	→ 81%
	うち 上矢作地区(ワイーダー) 明智地区(ワイーダー)	24枚 260枚	13枚	20枚 205枚	30枚 260枚	67% 79%

アウトカム指標		H29実績	R4実績	R5実績	R8目標値	達成度
1. 基幹路線（明知鉄道）の年間利用者数 (4月～翌年3月締)	380,889人/年 定期外162,489人/年 通勤定期14,040人/年 通学定期204,360人/年	253,354人/ 定期外96,366人/年 通勤定期11,628人/年 通学定期145,360人/年 (R3実績)	272,087人/ 定期外128,967人/年 通勤定期10,990人/年 通学定期132,130人/年 (R4実績)	384,000人/年	→ 71%	
	2. 広域幹線・幹線・市街地循環線の年間利用者数 (前年10月～9月締)	119,561人/年 (R4実績)	104,661人/年 (R5実績)	204,000人/年	→ 51%	
	3. 地域路線の年間利用者数 (前年10月～9月締)	84,386人/年 (R4実績)	78,967人/年 (R5実績)	101,000人/年	→ 93%	

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

	利用者数（単位：人）								収支率（目標値20%）					満足度（目標値96%）					自己評価
	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R8 目標値	達成率	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度				
全体（広域幹線を除く）	143,111	137,641	115,703	182,000	63.6%	19.1%	15.3%	10.4%	19.1%	15.3%	10.4%	91.0%	83.1%	95.1%	97.0%	B ₂			
旧恵那地区	19,366	19,154	19,807	21,217	93.4%	19.8%	27.0%	12.9%	19.8%	27.0%	12.9%	100%	79.5%	95.5%	96.0%	B ₂			
大井長島地域 (市街地地区)																			
東野地域	297	732	697	752	92.7%	5.9%	6.9%	6.5%	5.9%	6.9%	6.5%	100%	100%※1	100%	100%	B ₂			
三郷地域	14,662	15,224	14,287	23,925	59.7%	37.1%	19.1%	17.7%	37.1%	19.1%	17.7%	83.3%	100%	100%	100%	B ₂			
武並地域	15,436	14,022	11,960	17,772	67.3%	33.0%	28.0%	19.1%	33.0%	28.0%	19.1%	83.3%※1	100%	100%	100%	B ₂			
笠置地域	15,651	14,658	10,979	17,808	61.7%	30.0%	20.7%	16.2%	30.0%	20.7%	16.2%	100%※1	100%※1	100%	100%	B ₂			
中野方地域	20,911	22,564	20,585	31,626	65.1%	31.7%	35.8%	24.6%	31.7%	35.8%	24.6%	76.9%	100%	100%	100%	B ₂			
飯地地域	5,306	5,271	4,693	6,100	76.9%	23.4%	22.6%	10.9%	23.4%	22.6%	10.9%	83.3%※1	83.3%※1	90.5%	90.8%	B ₂			
岩村地域	224	132	62	311	20.0%	13.0%	11.1%	10.5%	13.0%	11.1%	10.5%	83.3%	100%	100%	100%	B ₂			
山岡地域 (内数デマンド)	4,254 (705)	4,271 (629)	3,661 (582)	4,236	86.4%	5.7% (22.1%)	5.8% (22.4%)	4.5% (13.9%)	5.7% (22.1%)	5.8% (22.4%)	4.5% (13.9%)	75.0%	75.0%※1	75.0%	80.0%	B ₂			
【ファイダー】 明智地域 上期 下期 (内数デマンド)	24,010	20,328	9,178 {-8,556 622 (120)}	29,512	31.1%	23.0%	21.5%	7.3% (4.5%)	23.0%	21.5%	7.3% (4.5%)	100%	85.7%	100%	100%	B ₂			
串原地域	9,287	8,398	8,482	9,630	88.0%	6.0%	6.0%	6.1%	6.0%	6.0%	6.1%	100%	100%	100%	100%	B ₁			
【ファイダー】 上矢作地域 上期 下期 (内数デマンド)	9,892	8,448	6,898 {-3,800 3,098 (99)}	15,232	45.3%	5.4%	5.4%	3.9% (5.2%)	5.4%	5.4%	3.9% (5.2%)	100%	66.6%	80.0%	88.0%	B ₂			

※1 回答が無かったため追加調査による。

評価基準 A：利用者が前年の1.01倍以上、収支率、満足度が目標値以上の場合 B₁：利用者が前年の1.01倍以上、又は収支率が前年を越えた場合
B₂：利用者が前年の1.01倍未満、又は収支率が前年を下回り、満足度が80%以上の場合 C：利用者及び収支率が前年を下回り、満足度も80%以下の場合

	利用者数（単位：人）					収支率（目標値20%）					満足度（目標値96%）					自己評価	
	R3年度	R4年度	R5年度	R8目標値	達成率	R3年度	R4年度	R5年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R2年度	R3年度	R4年度		R5年度
阿木地域	1,717	2,606	2,356	1,754	134.0%	5.8%	7.1%	6.1%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	B ₂
いいじ里山バス	1,403	1,211	1,372	1,244	110.2%	7.7%	7.4%	4.0%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	B ₂
くしばす	695	622	686	881	77.9%	4.3%	4.8%	5.9%	100%	83.3%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	B ₁

有償運送

評価基準 A：利用者が前年の1.01倍以上、収支率、満足度が目標値以上の場合 B₁：利用者が前年の1.01倍以上、又は収支率が前年を越えた場合

B₂：利用者及び収支率が前年を下回るが、満足度が80%以上の場合 C：利用者及び収支率が前年を下回り、満足度も80%以下の場合

目標達成状況についての考察

- ・R5年度は4月に大幅な路線再編を実施し、上期(R4/10-R5/3)は旧路線、下期(R5/4-R5/9)は新路線となり、前年との比較が難しい状況である。
- ・大幅に利用者数が減少した明智地域路線（ライダーシステム路線）は、路線再編により小中学生が通学利用していた定時路線、年間20,000人ほどが**スクールバスに移行**したことにより通年の半数に減少している。しかし、再編後は、まちなか巡回及び地域からのデマンドにより一般利用が徐々に浸透し増加傾向にある。
- ・上矢作線（ライダーシステム路線）及びその他の路線については、少子化により**通学利用者の減少**に伴い利用者数が減少している。
- ・（基幹路線）明知鉄道の利用者数は、前年より107%と増加傾向であり、観光による公共交通利用者数も増加し、コロナ前の利用者数である目標値に近づいてきている。しかし、通勤や通学は減少傾向であり、これは、**人口減少やライフスタイルの変化等**が影響していると考察する。今後バスと連携し、時刻や路線再編により公共交通を利用した通学可能な中学を増やしたり、高校生の通学支援策により、利用できる環境を整える必要がある。
- ・明知鉄道のグリーン会員証は、**地域協議会や民生委員協議会、壮健クラブ等での周知**により前年より増加。
- ・（広域～地域路線）バス利用者数は、前年より減少傾向（原因は前述）にあるが、公共交通を利用する団体やバス利用者満足度は、維持又は増加傾向である。現在の利用者数は、昨年度同月より増加傾向にあり、R6年度の年間利用者数は約132,000人以上を見込んでいる。利用者の満足度だけでなく、不満等にも注視し、各地域と協議を行い改善して、路線再編や整備した移動環境を更にPRして利用者の拡大を図る必要がある。

今後の取組方針

- ・R5年4月から大幅な路線再編を行ったことから、バス乗り方教室やイベントを通じてモビリティマネジメン
トの取組みを積極的に行う。また、1年経過後に効果などから令和6年度中に目標値の見直しを行う。
- ・移動可視化データを活用して、鉄道・バス・タクシーなど複数の交通モードによって公共交通網を一体的
に構築し、実情に合った持続可能な公共交通ネットワークを目指す。



目標1：公共交通を「支える」「活用する」地域住民の活動促進

- ・公共交通シンポジウムの開催 12月
- ・乗り方教室（地域・学校・イベント）の開催・・通年
- ・公共交通を活用したスタンプリーの開催・・3月から
- ・高校生とコラボした公共交通利用促進PR活動

目標2：持続可能な地域公共交通ネットワークの形成

- ・移動可視化データによる、一体的な交通ネットワークの再編
（バス・鉄道・シェアサイクル）
- ・上矢作線、明智地域路線の再編
- ・高校生の通学支援
- ・シェアサイクルのステーション検討（利用可視化データを基にステーションの移設や増設等）
- ・共通乗車券の検討（JR、明知鉄道、バス、タクシー）



地域と共に検討

目標3：域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備

- ・恵那市交通コンシエルジュの機能強化と拡充
高齢者等「お手軽デマンドバス予約機能」の追加
スタンプリー機能追加
公共交通を利用した旅コースの増設
- ・各施設と連携した利用促進（周知、スタンプリー、お得利用策）



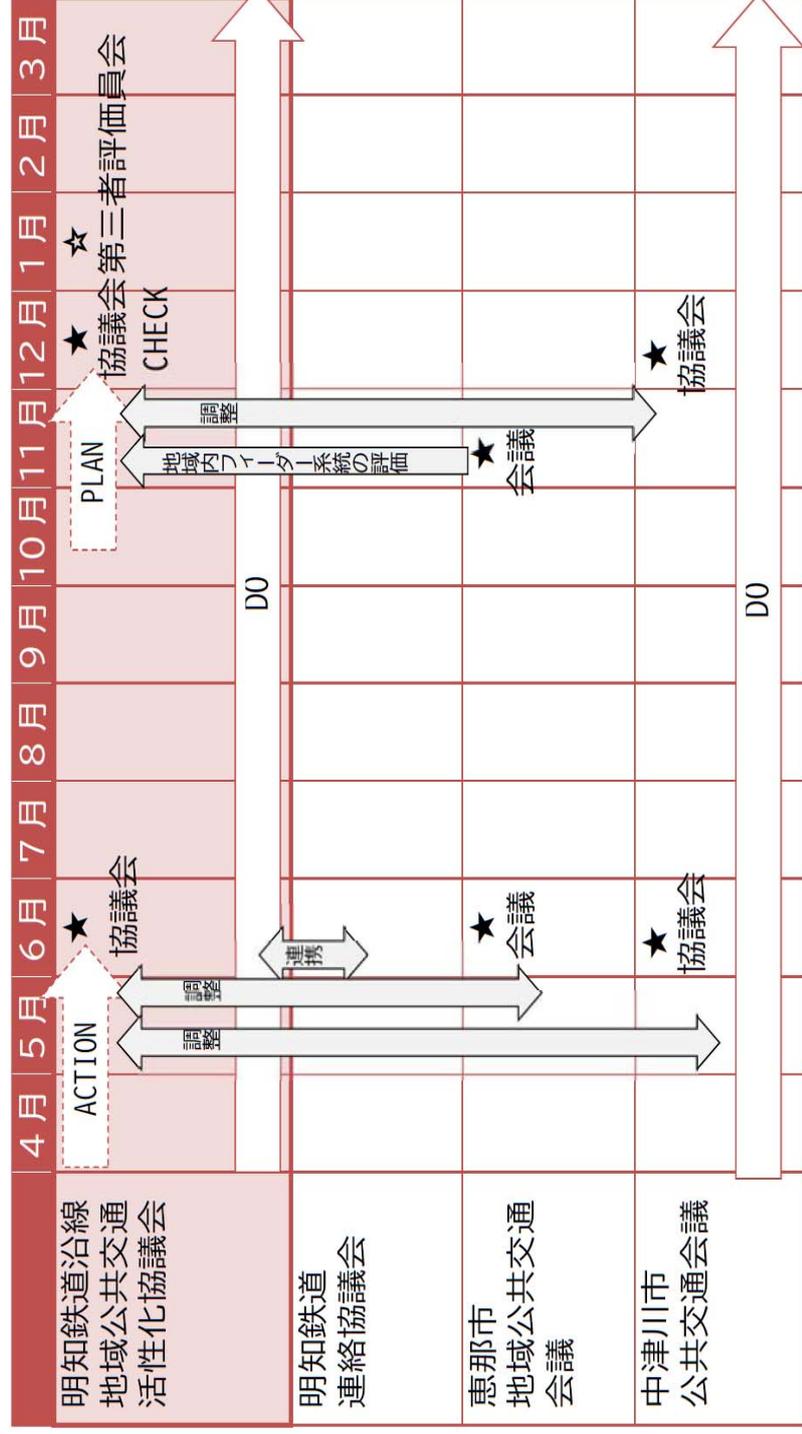
年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<p>引き続きイベントの開催や企画乗車券の発行、交通コンシエルジュの周知など、利用促進に努めていたただくことを期待します。</p> <p>次年度運行開始を予定している明智地域のバスについては、利用状況を確認し、継続的に見直しを行うことをご検討ください。</p>	<p>モビリティマネジメントの推進として、シンポジウムの開催、公共交通利用促進冊子の制作配布、バスの乗り方動画の配信を行った。また、冊子や動画を置いて乗り方教室や高齢者が集うサロン、小学生を対象に広く周知を行った。</p> <p>移動可視化データ、及びコンシエルジュ委託事業からの毎月の報告書を基に利用状況を把握し、運行委託事業者と毎月定例会を開き改善に向けた検討をしている。</p>	<p>これまでの利用促進に加えて、交通コンシエルジュからの意見を反映させることや新たな周知方法を加えるなど、更なる利用促進の充実に努める。</p> <p>地域や利用者からの意見、移動可視化データ、委託事業者からの提案を基に改善案を作成し、地域と一緒に検討を行う。</p>
	<p>令和5年度3月以降に予定しているわかりやすい運賃の仕組みの導入に向けては、住民や利用者の周知をしていただき、持続可能な交通ネットワークの構築につながることを期待します。</p>	<p>これまでの運賃は距離制や区間制と様々な体系で非常に分かりにくかったことから、分かりやすく利用しやすい運賃制度に見直しを行った。市広報やHP掲載に加えて、市議会への情報提供や報道発表、地域自治区への説明会、民生委員会や壮健クラブの会議で説明を行い周知徹底を図った。</p>	<p>住民や利用者への周知は継続することが重要であると考え、引き続きHPや広報誌、各種イベント等でのPRなど多様な手段により周知を図る。</p>

※前回：令和5年3月10日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	<p>次年度以降に予定しているわかりやすい運賃の仕組みや交通コンシェルジュの導入に向けて、地域の関係者との協議を踏まえ、利便性が高く、持続可能な交通体系が実現することを期待します。</p> <p>新設を予定している「まちなか循環環線」については運行開始後に、利用状況を確認し、継続的に見直しを行うことをご検討下さい。</p> <p>明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画に基づき、明知鉄道の利便性向上を着実に実施し、JR中央本線との接続改善や支線交通手段との連携強化を進めることを期待します。</p>	<p>令和4年10月より、公共交通の利用促進・利便性向上のため、10月から「電話相談窓口」と「公共交通ポータルサイト」の2本立てで移動に対するお困りごとを解決する「交通コンシェルジュ」を開設。ポータルサイトでは、バスの予約、位置情報、経路検索、観光案内、お得情報を掲載して運用を開始した。</p> <p>令和4年6月よりまちなか巡回バスの運行を開始した。また、まちなか巡回バスを補完する目的でシェアサイクルを8月より導入した。利用データを基に鉄道との接続や時刻再編を行った。</p> <p>計画に基づき、鉄道、バス、タクシーなど複数の交通モードによって公共交通網を一体的に再構築して、実情に合った持続可能な公共交通ネットワークを目指すために、路線及び運賃の再編の検討を行った。</p>	<p>1日乗車券等のオンライン決済やAI画像認識技術を駆使して映像を数値に変換した移動データの可視化を導入している。来年度以降は取得困難であった、バス・鉄道の乗降データとシェアサイクルの利用データも含めて分析し、路線再編等に活用していく。</p> <p>まちなか巡回バス及びシェアサイクルの利用データを基に路線再編を行う。</p> <p>令和5年3月のJR中央線時刻改正に合わせ、大きく時刻再編と運賃の改正を行い利便増進を図る。</p>

※前々回：令和4年3月10日

計画の評価と検証 計画の評価・検証、改善策の検討は、毎年年度末・年度はじめに開催される明知鉄道沿線 地域公共交通活性化協議会の場で実施。具体的には、計画の目標で定めた成果指標だけでなく、それを実現するための「路線単位での評価」についても確認を行う。目標値が達成できていない場合は、その要因を分析し、改善策を検討するPDCAサイクル（計画→実行→評価→改善）により実施する。



【協議会の実施状況】

- 第47回協議会（令和5年度第1回）令和5年5月25日
 主な議題
- ・ 前年度事業報告並びに収支決算報告
 - ・ 地域公共交通確保維持改善事業計画
- 第48回協議会（令和5年度第2回）令和6年1月11日
 主な議題
- ・ 明知鉄道沿線地域公共交通計画の改定
 - ・ 令和6年度活動方針（案）
- ・ 本年度事業計画（案）並びに予算（案）
- ・ 明知鉄道生活交通改善事業計画
- ・ 地域公共交通確保維持改善事業評価

中運交企第191号
令和6年3月21日

明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会
会長 柘植 克久 殿

中部運輸局長
(公印省略)

令和4・5年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について(通知)

日頃より国土交通行政にご理解とご協力をご賜り厚く御礼申し上げます。
さて、先般報告された標記事業にかかる一次評価について、これを基に二次評価を行ったため、別紙のとおり通知します。
なお、二次評価結果は協議会等において共有するとともに、次年度以降の計画等に反映いただくようお願いいたします。

【問合せ先】

中部運輸局交通政策部 交通企画課
TEL: 052-952-8006

(別紙) 中部運輸局二次評価結果 令和6年3月21日付け中運交企第191号通知

自治体・協議会名	明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会
評価対象事業	地域内ライダー系統

二次評価結果

評価できる取組

- ・目標達成に向け、回遊性を高める「まちなか循環バス」の運行開始、モビリティマネジメントの推進、運賃施策など様々なタイプの取組を進められていることを評価します。
- ・人とWEBによる「交通コンシェルジュ」を設置され、電話相談窓口とポータルサイトの二本立てで、地域外からの来訪者や高齢者など様々な方々に対し、利用しやすく抵抗なく移動してもらええる環境を整備されたことを評価します。

期待する取組

- ・令和5年4月に大幅な路線再編を行っていることから、利用動向の変化や効果などの情報収集と分析に努められることを期待します。
- ・今後の取組方針に沿い、地域の方々と連携しながら、移動可視化データの活用、交通モードや市域を跨いだ取組の検討・実施など、ニーズに応じた更なる取組が図られることを期待します。